

月刊 新翔タイムズ

第56号 新翔タイムズ 編集室 発行・熊野新聞社

第6回卒業式 玉石慎太郎君力強く答辞

3月1日、第6回卒業式を挙げて、男子60人・女子65人の計125人が晴れの日を迎えた。竹村校長は「新たな出発の夢多き卒業式だが、これからの時代は必ずしも豊かな人生が保障される時代ではない。この3年間で安全と安心、信頼と協同の重要性が問われる出来事があった。その中で、外国からの日本人に対する評価、信頼感はとも高い。日本人としての誇りを持ち、一人一人が誠実に、真面目に、社会の有用な一員として長い人生を歩んでほしい」と言葉を贈った。

「全力で頑張って」



在校生を代表して奥村場君は「伝統を引き継ぐこと、全力を尽くすこと、最後まで諦めないことを先輩から学びました。先輩から伝えられたことを実践していくことを約束します」と送辞。これに対し、卒業生を代表して玉石慎太郎君が「紀三井寺球場と体育祭で歌った校歌は忘れられないです。夏の大会で13年ぶりの初戦突破を果たし、新翔高校に名前が変更されてから初めて、新しい校歌を紀三井寺球場に流すことができました。どんな状況でも練習を重ねた毎日が、あの日の校歌につながっていったと思います。体育祭の閉会式では、学校が一つになったと感じることができた一瞬でした。『やりきった』という達成感や力を合わせた満足感が校歌に表れていました。後輩の皆さんは、学校行事や勉強、クラブ活動に全力で取り組み、悔いの残らないよう、最後の最後までやりきってください。それを自分の自信につなげ、この先訪れる進路に向けての取り組みでも、また、これから長い人生の中でも自分の支えとしてください。高校生活の中で、これだけは全力で頑張ったと堂々とできることを身に付けてください」と力強く答辞を読み上げた。卒業式の後、思い出のスライド上映が行われ、皆感慨深く鑑賞していた。

貴重な体験進路に生かす

1学年「産業社会と人間」の授業で、2月22日5限キャリア実習室において、学年全体でインターンシップ(就業体験)報告発表会が行われた。この報告会は、1月23日〜25日の3日間、太田町三重県紀宝町の60事業所でインターンシップを体験して、それぞれの成果や反省点などをまとめたレポートをまず各クラスで発表し、その中から優秀な内容の生徒2人ずつ、合計10人が学年全体での発表となった。



インターンシップ報告発表会 1学年

発表を聴く側の生徒も一人一人の発表について評価項目、感想を記入しながら、真剣に聴き取っていた。1年生の「産業社会と人間」の授業は、この日事ここが最後となり、インターンシップに限らず、この



1、2学年全員対象に進路説明会

1学年、2学年生徒全員を対象とした進路説明会が実施された。生徒はあらかじめ希望していた分野にそれぞれ分かれ、分野には大学や専門学校などの先生が講師となり、1年生は18会場、2年生は22会場に分かれ、進路に関する学習を行った。特に1年生の就職の分野では「進路の意識」や

早い段階から準備を

2月18日、2学年の総合学習の時間に、3年生の担任の先生から進路についての講話を聞いた。3年1組担任からは就職希望者に向けて、3年生を迎えるにあたっての心構えやどんなことに取り組んでいけばよいかの説明があった。就職試験に向けて気持ちや勉強の準備をすることをほかに、日々の学生生活を見直し、就職試験でアピールできる材料を作っていく大切さを述べた。



総合学習で進路講話 2学年

2月19日、看護・医療系学校への進学を目指す1、2年生を対象に、本校卒業生の上山佳高さん(今春、看護専門学校を卒業、4月より看護師として勤務予定)による講演会が行われた。生徒たちは、実際に看護専門学校で学ぶ内容や、看護生として求められること、全ての面においての厳しさなどの説明を受け、真剣にメモを取っていた。また、実際に看護専門学校で使用する教科書や、上山さんが丁寧にぎゅぎゅりとまとめたノートも見せてもらい、自分たちの感覚と現実には大きなギャップがあり、軽い気持ちではなく相当な覚悟がいる仕事であるということを感じ取っていた。

先輩からのメッセージ

看護師となる上山佳高さん



2月21日、休憩時間に大地震と津波が発生する想定した避難訓練が行われた。今回は休憩時間中、生徒はグラウンドや教室などのそれぞれの



きびきび働く姿に感動

家庭部では2月17日に販売する「まごの店」に現地学習会として、三重県伊賀市高野高等学校食料調理科が運営する高校生レストラン「まごの店」に参加した。生徒たちは目の前できびきびと働く姿を見ることで、将来の生き方や進路に対する意識を深めるよい機会となった。



接客をしていた2年生の男子生徒に部員がインタビューしたところ、「将来大阪方面の料亭に就職したいと考えています」という答えを返した。参加した家庭部員たちは、「料理・接客ともに高校生とは思えないくらいレベルが高かった。自分自身も感じた。自分自身も感じた。自分自身も感じた。」と感動を語った。

休憩時間に地震発生

本校は、毎年2回、避難訓練を行っているが、これまで授業中の想定で、教員が生徒を誘導していた。今回は休憩時間中、生徒はグラウンドや教室などのそれぞれの

先生の紹介



西村 先生の紹介

匡先生

匡先生

匡先生